

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
9	太田 康彦（29）	<p>1. G I G Aスクール構想 実現への取組と今後の課題について</p> <p>1人1台の端末環境と高速大容量の通信ネットワークの一体的な整備を柱とするG I G Aスクール構想は、令和元年12月の令和元年度補正予算に盛り込まれました。</p> <p>このときの萩生田光一文部科学大臣のメッセージは「1人1台端末とクラウド活用、それらに必要な高速通信ネットワーク環境の実現を目指すものです。そして、この実現には、各自治体の首長の皆様のリーダーシップが不可欠です。この機を絶対に逃すことなく、学校・教育委員会のみならず、各自治体の首長、調達・財政・情報担当部局など関係者が一丸となって、子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に取り組んで頂きますよう、心よりお願い申し上げます。」とあります。</p> <p>G I G Aスクール構想の実現には自治体の首長のリーダーシップが最も大きな力となることを全国に呼びかけ、富士市の小長井市長はこの呼びかけに即座に応えたことは記憶に新しいところです。</p> <p>令和2年1月30日の補正予算案成立を受けて、直後の2月5日の市長の定例会見において、小長井市長は、国の示すロードマップに沿った整備計画である1人1台の端末整備と学校におけるICTの環境整備を進めていくことを表明しています。</p> <p>まさにスピード感をもった対応であったと言えます。</p> <p>この年の2月補正ではネットワーク整備と端末保管庫の設置が盛り込まれ、令和2年度9月補正では1人1台の端末整備が予算化され、12月末までに全中学校と一部小学校への導入、3月中には市内43校全ての整備を完了しています。</p> <p>端末の導入からネットワーク整備には大変な努力が学校現場のみならず、様々な場で重ねられてきたと存じます。</p> <p>タブレットの配備から1年がたとうとする現在、児童生徒の学び、また授業に臨む先生方、さらには家庭における変化等について、どのような取組が見られ、いかに変わってきたのかを以下、伺ってまいります。</p> <p>まず、児童生徒の授業の様子についてですが、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) タブレット端末に慣れるところから始まる児童や既にパソコン等に慣れている児童の違いはありましたか。 (2) 授業中、発言の少ない児童生徒の授業への参加意識等に変化が見られたでしょうか。 (3) 各教室には保管庫が整備されていますが、タブレット端末の持ち帰りの状況は現在どのようになっていますか。 <p>次に、教職員の変化について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> (4) 児童生徒の理解度を把握する上でタブレット端末の導入効果は大きいと考えますが、いかがでしょうか。 (5) 授業の準備にはタブレット導入以前に比べ、より多くの 	市長 及び 教育長 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
9	太田 康彦（29）	<p>時間を必要とされるとの懸念についてはどうでしょうか。</p> <p>(6) 導入当初に比べ、先生方のスキルは飛躍的に上がっているとの評価がありますが、この点については具体的な事例がありますか。</p> <p>また、家庭における活用や管理の状況について伺います。</p> <p>(7) 家庭でのタブレット端末の活用状況と通信環境が整っていない家庭へのルーター貸出しは充足していますか。</p> <p>(8) 分散登校を行っていた時点では、オンラインによる配信等も行われていたようですが、効果について伺います。</p> <p>(9) 家庭との連絡では、ライデンスクール等が利用されているようですが、タブレット端末の利活用により家庭と学校の距離を埋めるような試みについての取組は行われていますか。</p> <p>デジタル教科書導入に向け、実証研究が進められています。</p> <p>(10) 教科書のデジタル化に期待する効果及び課題についてここまでの段階で、どのように捉えていますか。</p>	市長 及び 教育長 担当部長